



待降節第2主日 (マタイ 3:1-12)

「今年のクリスマス」と「来年以降のクリスマス」を待つ

待降節第2主日、洗礼者ヨハネが登場します。彼は「悔い改めよ、天の国は近づいた」(3・2)と呼びかけます。しかし4章17節ではイエスも、宣教活動の初めに「悔い改めよ、天の国は近づいた」と言っています。どこをどう見ても、違いは見られませんでした。念のため別の言葉で読み比べても、違いは見つかりませんでした。今年の待降節第2主日、違いのないところに違いを見つけることにしましょう。

「悔い改め」は、罪な生活から離れて、生き方を神に向けるということです。「罪な生活は送っていない」とお考えでしょうが、自分により頼む生き方、この世のものにより頼む生き方は、突き詰めると「罪な生き方」なのです。

ファリサイ派の人々、サドカイ派の人々は「我々の父はアブラハムだ」と考えていましたが、ここには血筋という、この世の要素が透けて見えます。アブラハムの子孫だというだけでは、神に正しいと認められないのです。むしろ、生活を神に向き直らせることが大切なので、その点では群衆、徴税人、兵士、遊女達のほうが真剣に悔い改めの実を結ぼうとしました。

さて違いを見つけるとっかかりとして、洗礼者ヨハネは「天の国は近づいた」と伝えるけれども、「天の国」についてどんな国なのかを示すことができなかつたのです。ここがイエス様との違いです。イエスも「悔い改めよ、天の国は近づいた」と言いますが、洗礼者ヨハネと違って「悔い改めの生き方とは、わたしの生き方のことです」「天の国とは、神であるわたしの支配が及ぶその日のことです」と、はっきり言うことができました。

洗礼者ヨハネが促す準備は、自分を荒れ野に導いた聖霊によるものです。イエスが「悔い改めよ、天の国は近づいた」と促す準備は、誰にも寄り頼むことなくご自身から出ていました。告げ知らせる言葉に一字一句違いがなくても、洗礼者ヨハネが告げる場合とイエスが告げる場合とでは大きく違うことが感じ取れたのでしょうか。違いのないところに、違いを見つけることができたのでしょうか。

ここまでの話を踏まえて、皆さんに聞きたいことがあります。中田神父が「今年のクリスマスと来年以降のクリスマスの違いは何ですか？」と聞かれたらどう答えるか考えてみてください。「今年のクリスマスも来年以降のクリスマスも同じでしょう」と考えますか？私は近い将来、今年のクリスマスが見納めになるだろう、という考えを持っています。

なぜそう言うのかは、言わなくてもお分かりでしょう。この田平教会聖堂で、来年以降にクリスマスが迎えられない可能性があるからです。すぐ一年後とは断言できませんが、必ずその日はやって来ます。すると、同じクリスマスの準備で良いものでしょうか？例年のクリスマスの準備

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。
とは違う何かが必要ではないでしょうか。

例年、脇祭壇を使った馬小屋でクリスマスをお迎えしてきました。しかし今年は、脇祭壇を使った馬小屋がなくても、クリスマスを迎えられる。その心の準備をしておきましょう。クリスマスのその日は、主任司祭が御子様を抱いてこの聖堂の通路全体を使って行列します。電気を落とした中で、聖堂ならではの荘厳さがあるわけですが、その荘厳さがなくても、クリスマスを迎えられる。その心の準備が今年が必要です。

今年のクリスマスで目にしたものの多くが、近い将来取り上げられるかも知れません。それでもクリスマスを揺るぎなく迎えられる。その自信というか確信を得るためには、今年、内面の準備がより重要になってくる。中田神父はそう思います。

幸いに、神の御子は人が誕生するときに期待できるものを何一つ与えられずにお生まれになりました。仮に私たちが、田平教会聖堂で期待できるものを取り上げられたとしても、神の御子は何もないところに、すべてを与えるためにおいでになります。これからどうなっていくのか、見えない中にはっきりと生き方を神に向ける姿を見せようとおいでになります。「わたしをごらん」と招くために、すべてを取り上げられても私たちのもとにおいでになるのです。

そのことを頭に置いた上で、今年のクリスマスの準備を進めましょう。今年の待降節は、今年のクリスマスのためだけの待降節ではありません。同じ準備で、違いを見つけられる年にしなければなりません。来年以降のクリスマスのために、何もないところにすべてをお与えになる神の御子を焼き付けるための時間としましょう。

洗礼者ヨハネは今の時代の人々をイエス様がいよいよ導かれるその時に向けていきました。そのように、私たちは今年の待降節を、見えるものが取り上げられても揺らぐことのない信仰を育てる待降節としましょう。神は、何もないところに、すべてを与えることのできるお方なのですから。

待降節第3主日(マタイ 11:2-11)